



木下さんってどんな人？

強烈な光を放つ新キャラです

彼が初めてこの施設にやってきた時、なんてパワーのある好青年が現れたかと思いました。

向が丘スタッフや利用者さんが語る木下さんのホント。



スタッフ：竹本



スタッフ：櫻井彩夏

とにかく爽やかナイスガイ！

あの笑顔で「おつかれさま」って言われると、スーッとつかれがほぐれます(笑)。気遣いもしっかりしてくれるので、本当に頼れるお兄さん！憧れの先輩です。



スタッフ：山田星海

「みんなのために」ができる人

例えば、ほほえみでは夜勤の人が早番の人のために朝食を作ります。それが木下さんの場合、異常に凝っていて、しかも美味しい！そんなことができちゃう人。



利用者：Sさん

いつからの付き合いだった？

随分と昔からお世話になっているみたい。とにかく挨拶が元気で良い！

グループホーム 向が丘



地域で行われたファッションショーで近所のおばちゃんをエスコートする私

「あなたとともに」をスローガンとして掲げ、地域交流の拠点となっている施設です。施設内で完結するのではなく、地域に住むみなさまと相互に支え合うことで、より質の高い介護サービスを目指しています。ボランティアさんも、現在では120名を超え、目標に向けて着実に歩みを進めています。

〒468-0012 名古屋市天白区向が丘4丁目1002番地
TEL 052-433-6111 <http://hohoemi33.co.jp>

Facebook

フェイスブックで「株式会社ほほえみ」を検索して頂くか、右記のQRコード→を読み取りアクセスしてください。



木下季大
グループホーム向が丘
小規模多機能型居宅介護ひらばり
四代目施設長

ほほえみ選手名鑑

木下季大 (きのした としひろ)

静岡県湖西市出身

特技：爽やかスマイル

趣味：体をうごかすこと

好きな言葉：挑戦することを恐れるな！
挑戦しないことを恐れる！

尊敬する人：両親

好きな映画：50回目のファースト・キス

好きな本：メンズノンノ、マンガは宇宙兄弟

好きな食べ物：ハンバーグ、筑前煮

ブログやってます！

ブログタイトル：

「STひらばり・木下季大～大きな栗の木下です。」

<http://blog.livedoor.jp/tkinosita333333/>



プライベートの私

私のプライベートを
ちょっとだけ
ご紹介します。

スニーカー道楽、万歳！



スニーカーが好きなんです。ナイキ、VANS、ニューバランスなど各メーカーのものを持っています。どうしてもほしいモデルが発売された時は、並んで購入したこともありました。以前、昇進祝い先輩からコンバースのスリッポンをいただいたのですが、これは特に思い入れのある一足になっています。

がんばってきた水泳を継続中



なんだかんだ水泳を続けてきたので、今でもたまに大会に出場しています。写真は2014年の「琵琶湖・長浜オープンウォータースイムレース」で入賞した時の一枚です。中・高校時代のようにスピード重視での泳ぎはできませんが、持久性重視の遠泳ならまだイケます。ちなみに、地域の水泳クラブにも所属していますよ。水泳以外にもランニングで汗を流したりするのも好きです。



社長にも負けていない

「介護業界を変える」という強い意思

「小規模多機能型居宅介護施設ひらばり」に在籍する木下季大(としひろ)。何にでも、常に前向きに取り組む姿が印象的です。しかもかなりストリート。目的のためなら笑顔で社長にも直談判します。そんな彼が目標としていた施設長になる日がいよいよやってきました。ほほえみきつてのさわやか系ポジティブ男子・木下が描く理想の施設像とは？！

原点

1989年、静岡県湖西市に生まれた木下は、4人兄弟の末っ子でした。幼児期はウルトラマンや仮面ライダーが大好きで、理由は単にカッコいいからではなく、困った人を魂爽と助けると憧れていたから。つまり、木下は正義感に満ちた子どもにも育ち、「こうした気質が備わっていたのも、今の仕事を選んだ理由のひとつかも」と自己分析しています。

ターニングポイント

高校3年生の時、進路について悩んでいると、父親から「デイサービスの見学を勧められました。お年寄りが好きだった木下は、社会見学のつもりで参加。関わったお年寄りからは「毎日来てよ」と呼びかけられたり、別れ際に涙を流されるなど、数々のうれしい出来事に恵まれました。そこで木下は「自分は感謝されることで喜びを感じる。だから、介護業界が向いている」と確信。知識を習得すべく、福祉系大学に進学します。

在籍した学部は、福祉経営学部。大学3年の夏休みには、授業の一環で施設での実習に参加しました。そこで木下は「働く人にも利用者さんにも笑顔が見られない」と介護現場の悲しい実態を目の当たりにします。ショックを受けましたが、「施設運営に携わり、介護現場の実実を変える」という使命を自らに課すことで、気持ちを大いに奮い立たせたのです。

ほほえみ入社

実習後、すぐに就職活動。すると知人から「こんな施設がある」とほほえみを教えてもらいます。すでに数社から内定をもらっていましたが、気になって説明会に出席。すると、「やりたいことはさ、実現させようよ」と語る杉浦社長の前向きさに惹かれ、「ここなら理想の施設を実現できる」と手応えを感じ、選考試験に挑むことにしました。

面接前にはほほえみの施設も見学。学生時代に実習で訪れた施設とは異なり、笑顔が咲き誇る光景に木下はうれしさと震えました。ちなみに面接では、2時間以上も杉浦と介護について熱く語り合ったそうです。

現在

木下は介護に取り組む際、入所者の「やりたいこと」をできるだけ実現できるよう努力します。例えば、人混みが苦手な男性が「温泉に行きたい」と言った時は、すぐにスタッフを集めてミーティングを開き、解決策を考案。家族風呂に連れて行くというプランを実行しました。

「施設に入ったら自分の望みは叶わない」なんて思ってもらいたくないんです。ましてや職員ができないと決めつけてはいけません。チャレンジしたらできることはたくさんあるはずですから。これまでチャレンジをモットーに生きてきた木下だからこそその力強い発言。さわやかな見た目とは裏腹に、ほほえみに入社してからそのモットーを貫き通してきた熱さとポジティブさが彼の持ち味とも言えます。

そんな木下が2014年に会社から「施設長になることを検討してほしい」と言われます。ついに「施設の責任者として運営に携わり、介護現場の実実を変える」という夢を叶える時がやってきたのです。けれどそのためには、木下がイメージする施設の運営方針について、杉浦以下、ほかの施設長たちを納得させる必要があります。そこで木下は考えを巡らせて、自身が掲げてきたモットーであるチャレンジをテーマにした運営方針を固めようと思いを絞ります。

杉浦と各施設長に行ったプレゼンは合計8回。方針を綴った企画書を何度も書き直すことになり、さすがに途中でくじけそうになりました。しかし、方針が定まらなければ、グループホーム向が丘で働くスタッフも、いったいどんな介護をめざせばいいかがわからなくなり、木下が理想とする施設も実現することまでできません。A4数枚ほどの企画書ですが、「書いているうちにその重みを次第に理解した」と木下は当時を振り返っています。

2015年の夏に書き始めて、最終的にOKがもらえたのが同年、年末。入社後に取り組んだ一番大きな課題をクリアした木下にとっては、これまでにないほどの達成感で満たされた年末年始を過ごすことができたそうです。

「施設長になるというひとつの目標を達成しましたが、僕はまだ道半ばにいます」と思っています。入所者の皆さんが、夢を叶えてほしいの笑顔を見せてくれる日が来るまで、僕、そしてグループホーム向が丘のチャレンジは続きます。

ほほえみの未来を背負って立つ若きエース。これからの快進撃にますます期待が持てます。

木下季大 自筆年表

1989年 静岡県のもつとも西に位置する湖西市にて出生。4人目の子どもということで見兄弟からはとても可愛がられて育つ。

1994年 持病だった喘息により効果を発揮すると言われている水泳を開始。

1996年 華奢な体つきでしたが力持ち。地域の相撲大会に出場すると自分よりも体の大きな高学年の子を次々となぎ倒し優勝。

2001年 お菓子の食べ過ぎで、小学高学年から太り始める。中学入学時にはすっかりぽっちゃり体型に。とはいえ、水泳はスクールに加えて部活でも続け、さらにのめり込むように。友達と遊ぶ時間はほとんど確保できませんでしたが、部活の方で県大会決勝に進出。

2004年 地元の高校に進学。水泳は中学で燃え尽き症候群となったため、テニスに浮気。でも、あまり練習熱心ではない部だったので、まともな水泳部へ。

2005年 『モチ期到来！あとと聞いた話では知らないところでファンクラブが創設されていたそう。ところが、いいことばかりではなく見ず知らずの先輩に「調子に乗るな！」と恫喝される……。

2006年 部活では顧問から部長になり、部の立て直しを任せられました。

2007年 弱小と言われたチームをまとめ、出場不可能と言われた県大会に。その後、進路検討の際に父の勧めでデイサービス見学に出向き、自分が介護の仕事に向いていることを実感値として得る。そして大学へ。

2010年 実習で訪れた施設にて、流れ作業で進められる介護を体感し、ガツリ落ち込む。これをきっかけに業界改革を心に誓い立ち上がる。

ほほえみに入社。先輩にビジョン鍛えてもらいながら、管理者になるための研修にも参加。ちなみに、杉浦社長に抱いた第一印象は「熱い意思を持った人。で、変わり者(笑)」とのこと。

2012年 後輩の指導役も務め、さらに研修にも参加するなど、着実にスキルアップ。車椅子利用者が歩くことを諦めずに楽しくリハビリに取り組み、チャレンジングを実現させたいと意気揚々。

